

2. 飯田保健所における感染性胃腸炎予防のための出前講座の実施について

竹松美由紀、宮島里美、白上むつみ、三石聖子、
西澤志帆、下平奈緒子、佐々木隆一郎（長野県飯田保健所）
キーワード：感染症、出前講座、社会福祉施設

要旨：飯田保健所管内では、社会福祉施設等での感染性胃腸炎による集団発生件数が増加傾向にあった。そこで社会福祉施設等における感染予防方法について検討し、平成24年度から社会福祉施設等に出向いて感染性胃腸炎の基礎知識、標準予防策、及び吐物処理などの講義・実習を行う出前講座を開始した。その結果、平成25年度は感染性胃腸炎による集団発生の件数が大きく減少した。本報告ではこの取組みについて考察をまじえて紹介する。

A. 目的

飯田保健所では、地域における感染症対策を医療機関、社会福祉施設、保育所、及び学校と連携して行ってきた。社会福祉施設等における感染性胃腸炎の集団発生が急増したことから、平成24年度から感染性胃腸炎の集団発生予防の為の出前講座を開始した。本報告では、この取組みの実施状況及びその後の集団感染の発生状況について、保健所の役割について若干の検討を加え、報告する。

B. 飯田保健所管内の感染症の届出状況

感染症発生動向調査によると、飯田保健所管内の感染性胃腸炎（小児科定点）は、平成24年に578.0人（定点当り人数の年計）に急増し、平成25年には418.5人に減少していた。

図1は、管内の医療機関の協力を得て行っている「糞便由来病原体検出サーベイランス事業」による病原体検出状況である。平成21年～24年まで毎年300件を超えていた病原体検出総数も平成25年には244件と減少していた。

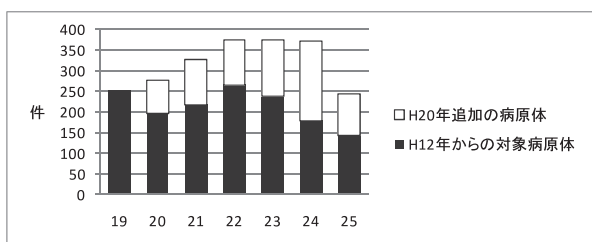


図1 糞便由来病原体年次別検出総数

病原体別の検出状況を見るとカンピロバクター属菌が69件から24件へと減少した。ノロウィルスの検出件数は、平成24年には121件と急増がみられたが、平成25年には51件へと減少した（図2）。

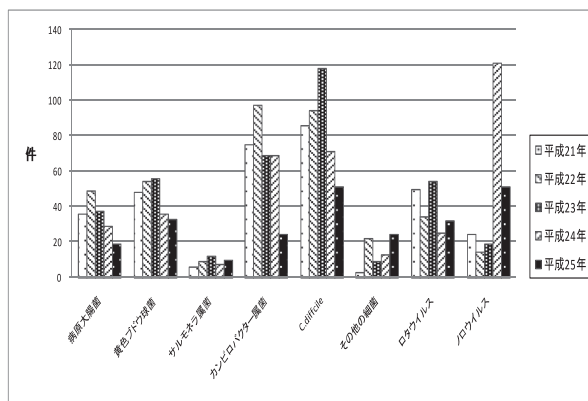


図2 病原体別検出件数

図3に、平成21年度から平成25年度の間社会福祉施設等での集団発生件数（保健所が積極的疫学調査を行った件数）を示した。集団発生全体は、平成24年度をピークに増加傾向にあった。

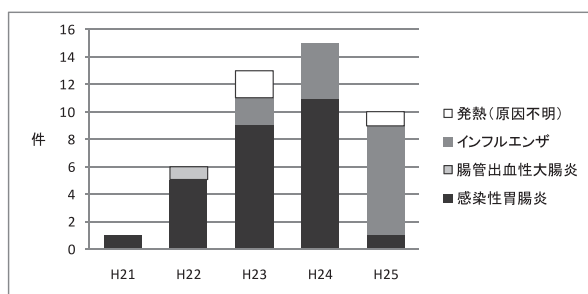


図3 感染症集団発生件数の推移

C. 出前講座の取組みの経過

(1) 社会福祉施設等における感染性胃腸炎予防のための取組み

飯田保健所では、平成17年の長野県の通知を受けて、社会福祉施設等の施設責任者及び介護職員等に対する衛生知識の普及、技術の向上を図るために研修会を毎年度開催してきた。参加者は毎回200名を超える

ため、感染症の基本や標準予防策、吐物処理方法、結核、インフルエンザなどについて包括的な講義を中心とした内容であった。また、個別に依頼のある施設については可能な限り現場に出向き、標準予防策や吐物処理の方法について実践的な講座を行ってきた。

(2) 出前講座の内容の見直し

前述の通り、平成 23、24 年度に社会福祉施設等で感染性胃腸炎による集団発生件数が急増したため、出前講座の内容を、以下の通り講義と実技を取り入れてより具体的な方法に見直した。

- ① 感染源対策：
施設職員や利用者の日常的健康チェック
環境整備や適切な消毒方法
感染者発生時の対応（隔離など）
- ② 感染経路対策：
標準的予防策の実施
吐物処理方法について

(3) 出前講座の実施方法

従来、出前講座は、依頼のある施設に対して行ってきた。しかし、そうした施設は、感染症予防に対する意識が高く、実施の優先度は低いと考えた。また個々の施設に出向く方法は、研修開催可能回数に制限がある。そこで、地域全体のレベルの向上のため、実施方法を以下の通り見直した。

- ① 社会福祉施設等を発生の多い高齢者入所施設と保育園・幼稚園のグループに分け、それぞれのグループを管内 4 ブロック（北部、飯田市、西部、南部）のいずれかで年 1 回開催する。開催ブロックの優先度は前年度に集団発生の多かったブロックとした。
- ② 会場は開催ブロック内の協力頂ける施設とし、より現状に即した形で実施する。また吐物処理物品は各施設から持参してもらい、お互いに物品についての情報交換ができるようにした。
- ③ 各施設 1～2 名の参加とし、講座参加者が自施設で指導者として研修を実施できるよう吐物処理研修の開催方法も講義内容に加えた。

上記の見直しをもとに、平成 24、25 年度出前講座を実施した。

D. 結果

平成 25 年度の感染症の集団発生の総数は、前年度に比べて減少した。集団感染の原因別にみると、インフルエンザは平成 25 年度も、依然として増加傾向にあった。一方、感染性胃腸炎による集団感染の発生件

数は、平成 25 年度は 1 件であった。

E. 考察

飯田保健所では平成 24 年度から感染性胃腸炎の発生を予防するための出前講座を開始した。一方平成 25 年度における感染性胃腸炎の集団発生件数は 1 件であった。平成 25 年度における感染性胃腸炎による集団発生の著減は、出前講座の効果と考えることもできる。

一方、平成 25 年には、飯田地域では、感染症発生动向調査に基づく感染性胃腸炎の届出数の減少や「糞便由来病原体検出サーベイランス事業」によるノロウイルスの出現率の減少などもみられる。したがって、今回みられた感染性胃腸炎の集団発生の減少は、地域の発生が少なかったことの影響と考えることも可能である。

しかし、図 3 に示したように、平成 25 年における集団発生の件数の減少は、他の感染症では減少は特徴的ではなく、感染性胃腸炎に特徴的にみられたように見える。これは、今回の出前講座が、ある程度効果的であったことを示唆する結果ではないかと考えた。

今回の出前講座は、これまでの講座と比べ、より多くの地域の施設をグループ分けし、対象とした感染症を特定して、より現場に近い場所で、現場で用いられている用具を用いて、より実践的に行ったことに特徴がある。また、施設からの出席者を限定したことによって、出席者が施設における感染症予防リーダーとしての自覚を持ったことで、施設における予防活動が実質的なものとなった可能性も否定できない。

本報告は、単年度の現象を観察的に捉えたものであり、出前講座の実施の効果を明確にすることはできなかった。

今後感染症の種類を変え、同様の出前講座を重ねることで、効果的な出前講座の実施方法を工夫し、更なる管内の感染症対策のレベルアップを図っていきたい。